

ヘルメス ヘルフリヒト

指揮者

ヘルメス・ヘルフリヒトは、同世代で最も多才な指揮者として、ヨーロッパ各地のオーケストラと定期的に共演している。彼の幅広いレパートリーは、バロック作品から現代音楽の世界初演まで、多岐にわたる。2023年には、ボン市立劇場にて指揮をした作品のうち3つが、「ベスト再発見」部門でOPER! AWARDを受賞。ヘルフリヒトは現在、エアフルト市立劇場の音楽総監督、並びに、ザクセン・エルプランド管弦楽団の主席指揮者に任命されており、両職位とも、2025/2026シーズンより正式に就任する予定。

1992年ドイツ・ザクセン州、ラーデボイル生まれ。早くからピアノ演奏において音楽の才能を発揮する。ドレスデン聖十字架合唱団に9年間所属し、ベルリン・コーミツシェ・オーパーでモーツァルトのオペラ「魔笛」の少年ソリストとして出演。同合唱団のカントールであったローデリッヒ・クライレのアシスタントを勤め、2010年ルドルフ・マウアースベルガー奨学金を受賞。ベルリン芸術大学でオーケストラ指揮法を学び、アルテミス四重奏団の室内楽クラスにピアニストとして参加。歌曲伴奏をペーター・シュライアーに師事。ヘルフリヒトは21歳の時、指揮者フォーラム奨学生として、トゥガン・ソヒエフからベルリン・ドイツ交響楽団、そしてスペイン国立青年オーケストラにアシスタント指揮者として招待される。

これまでにエアフルト劇場とザンクト・ガレン劇場で指揮者として勤め、2018年ボン劇場の第一常任指揮者に就任。フィガロの結婚、後宮からの逃亡、フィデリオ、ナブッコ、仮面舞踏会、リゴレット、ドン・カルロ、ローエングリン、ラ・ジョコンダ、ラ・ボエーム、蝶々夫人、トスカ、エフゲニー・オネーギン、マクロプロス事件等、数多くのオペラを指揮している。ボン劇場において、1933年以降上演されることのなかったオペラを取り上げるプロジェクト、Fokus 33は非常に高く評価されており、そのシリーズの一環として、ヘルフリヒトは、シュレジエンの森の妖精、リー・タイ・ペ、コロンブス、アスラエルの指揮を担当。特にアスラエルは、音楽誌から「間違いなく、ここ数十年で最も見事なオペラ発掘作品の一つ」と賞賛された。23/24シーズンには、シュヴェリン・メクレンブ

ルグ州立劇場での「タンホイザー」、ゲルリッツ劇場での「さまよえるオランダ人」、ハーゲン劇場での「ドン・ジョヴァンニ」の再演指揮に招かれた。

今までに、リンツ・ブルックナー管弦楽団、ブレーメン・フィルハーモニー管弦楽団、ライプツィヒ・プファルツドイツ国立フィルハーモニー管弦楽団、マクデブルグ・フィルハーモニー管弦楽団、カタール・フィルハーモニー管弦楽団などの著名なオーケストラと共演。現在、ヴェルツブルク・フィルハーモニー管弦楽団、ハーゲン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイトリンゲン・ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団、ボン・ベートーヴェン管弦楽団と共演。

2024/25シーズンには、初演の「愛の妙薬」、「ヴェスペルタイン」に加え、ボン劇場で「ニュルンベルクのマイスタージンガー」、「トスカ」、「魔笛」、「ヘンゼルとグレーテル」を指揮する予定。

これまでの共演者には、デヴィッド・ゲリングス、ローレンス・パワー、クリスチャン・シュミット、ラドヴァン・ヴラトコヴィッチ、などの器楽奏者の他、ヤエニン・デ・ビケ、マルティン・ミューレ、タレク・ナズミ、エレナ・パンクラトヴァ、アンナ・プリンチェヴァ、ミルコ・ロシュコウスキー、ジャクリーン・ワーグナーなどの歌手がいる。

ヘルフリヒトは、ケルン音楽大学で非常勤講師を勤めた。